



銀座鳳凰クリニック

がん免疫療法 症例紹介

(2025.04.23更新)

目次

■ 膵臓がん症例	P3
■ 食道がん症例	P9
■ 十二指腸がん症例	P12
■ 小腸がん症例	P15
■ 肺がん症例	P18
■ 子宮頸がん症例	P24

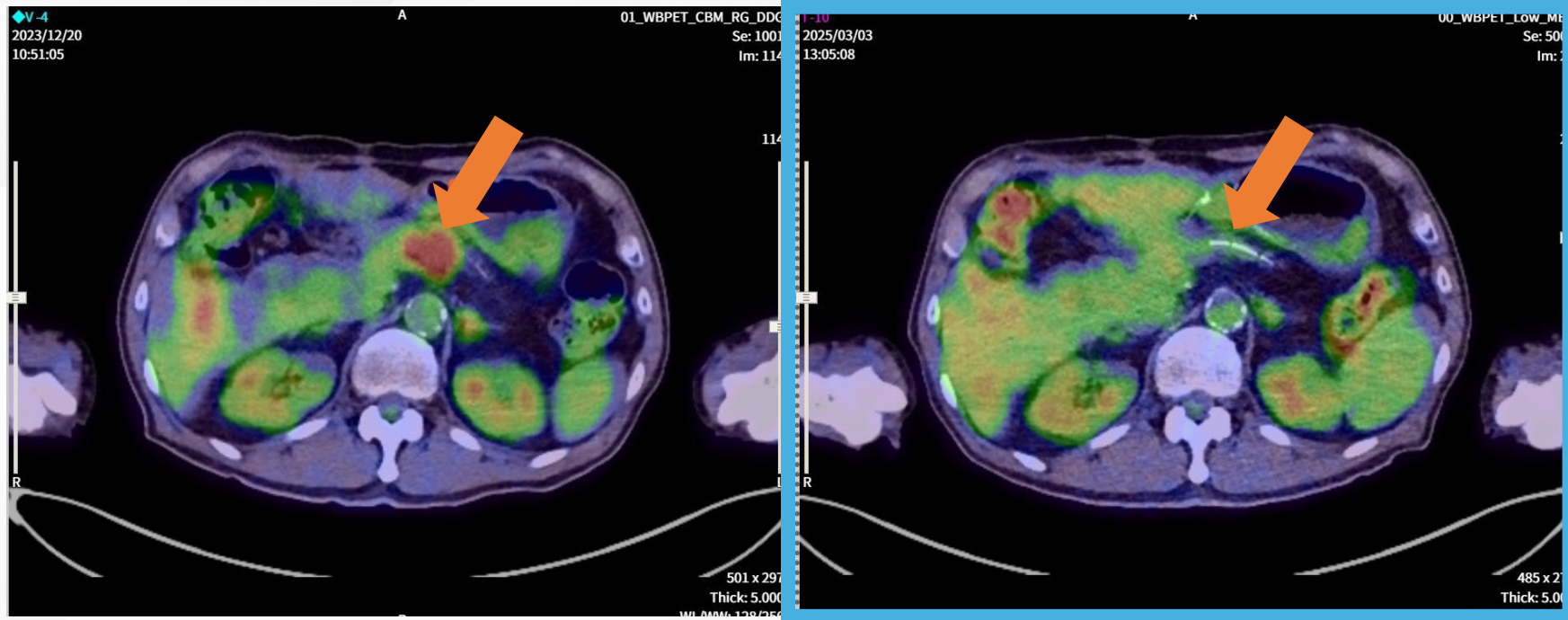
■ 乳がん症例	P27
■ 卵巣がん症例	P31
■ 胃がん症例	P34
■ 肝臓がん症例	P38
■ 原発不明がん症例	P40

Pancreatic cancer cases

膵臓がん症例

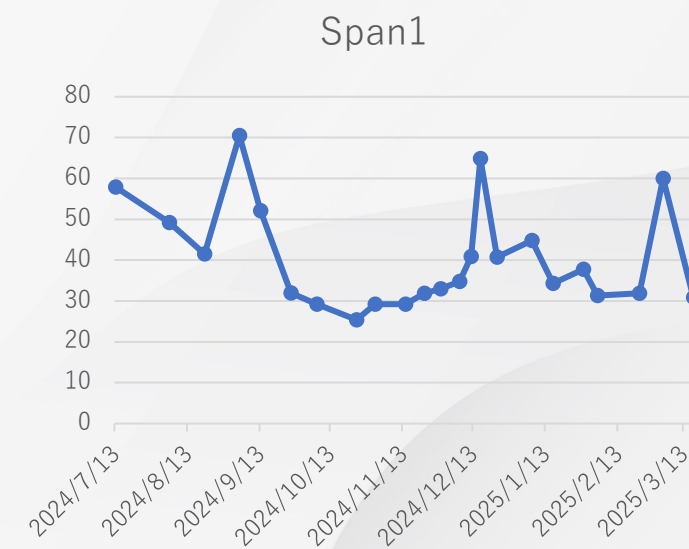
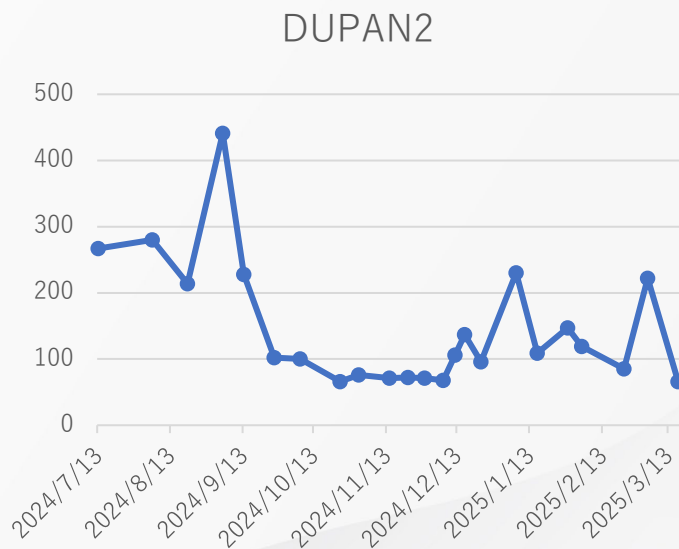
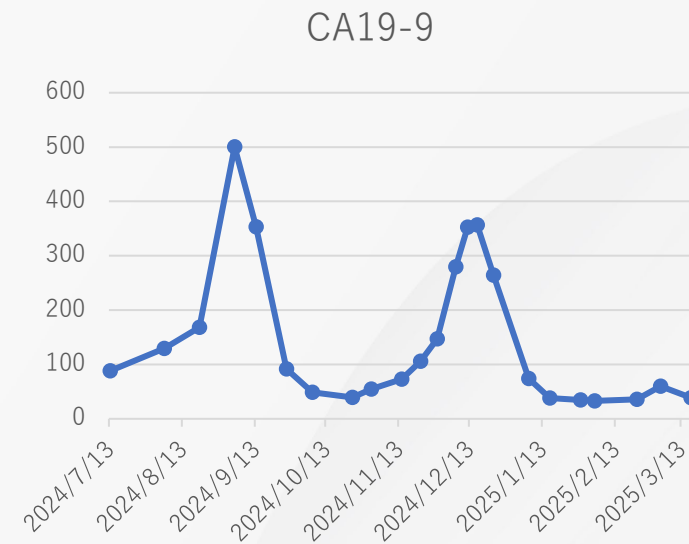
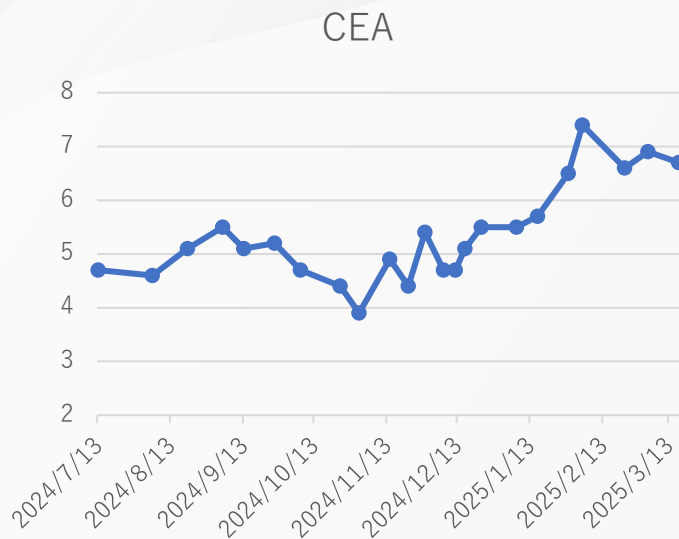
- 再発性膵臓がん — P4
- 膵頭部癌 術後再発（Stage IV） — P6
- 膵鉤部癌 肺転移、腹膜播種（Stage IV） — P7

症例1 再発性膵臓がん

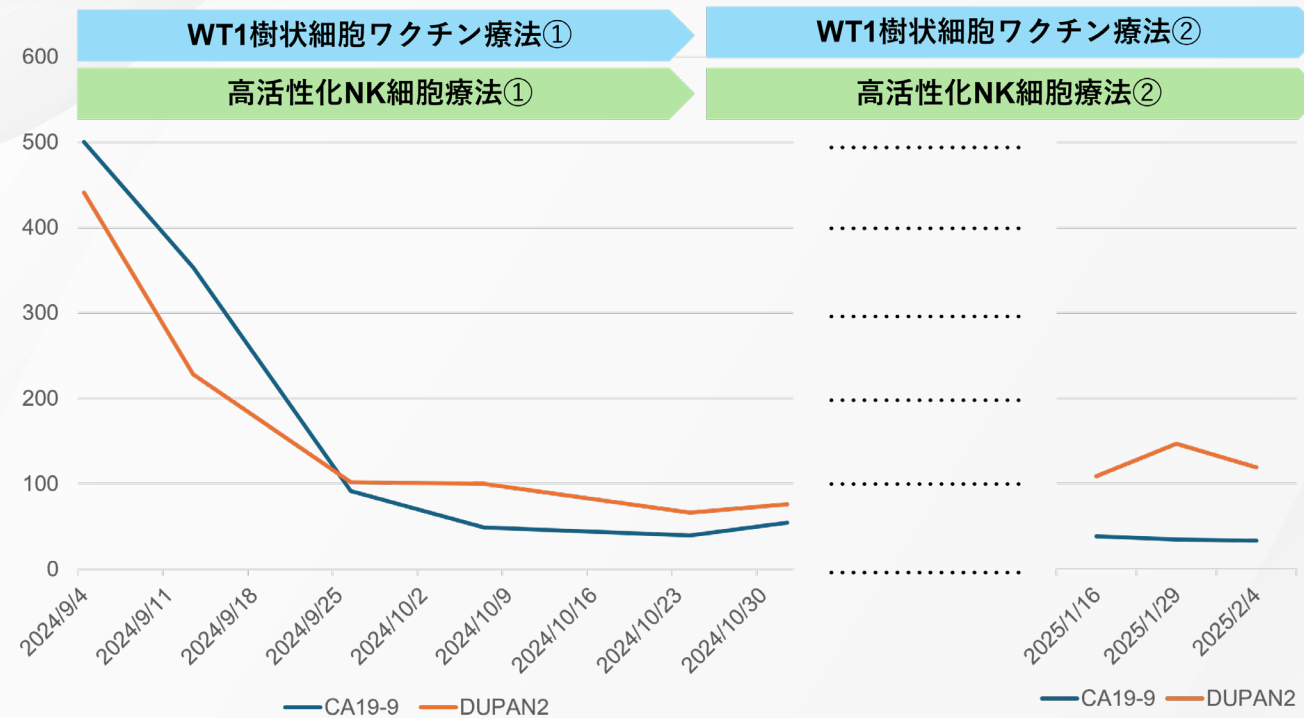


- 化学療法の副作用により患者が化学療法を拒否した。
- 当院のWT1樹状細胞ワクチン療法、 α Galcer樹状細胞ワクチン療法、NK細胞療法、少量オプジーボ療法、少量ヤーボイ療法による免疫細胞治療のみで膵臓癌は完全に消失した。
- 全ての腫瘍マーカーが正常値にまで低下した。

腫瘍マーカーは正常値に低下した。



症例2 腭頭部癌 術後再発（Stage IV）

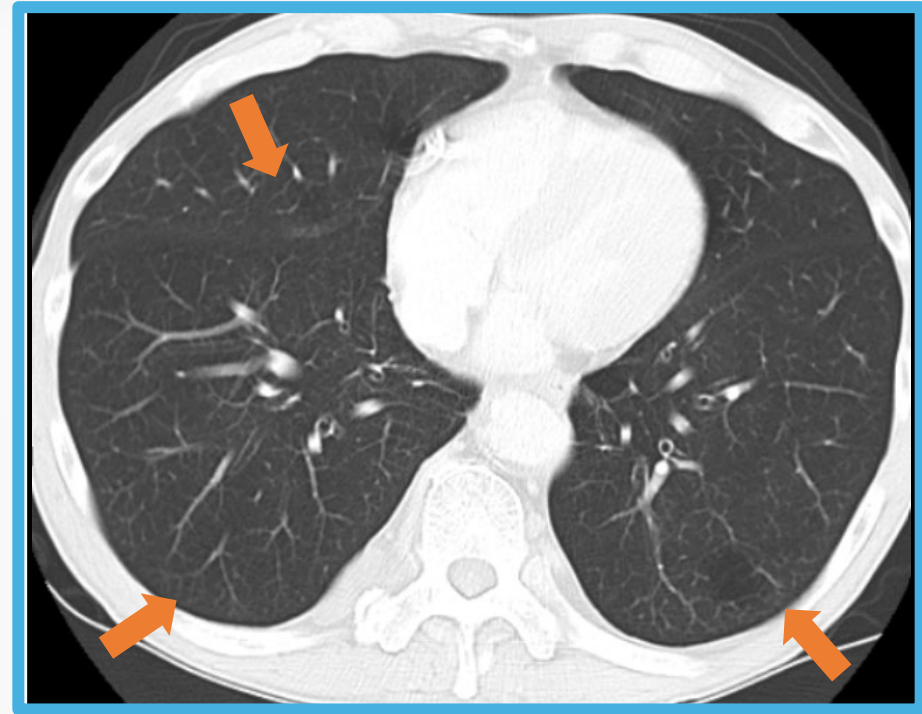
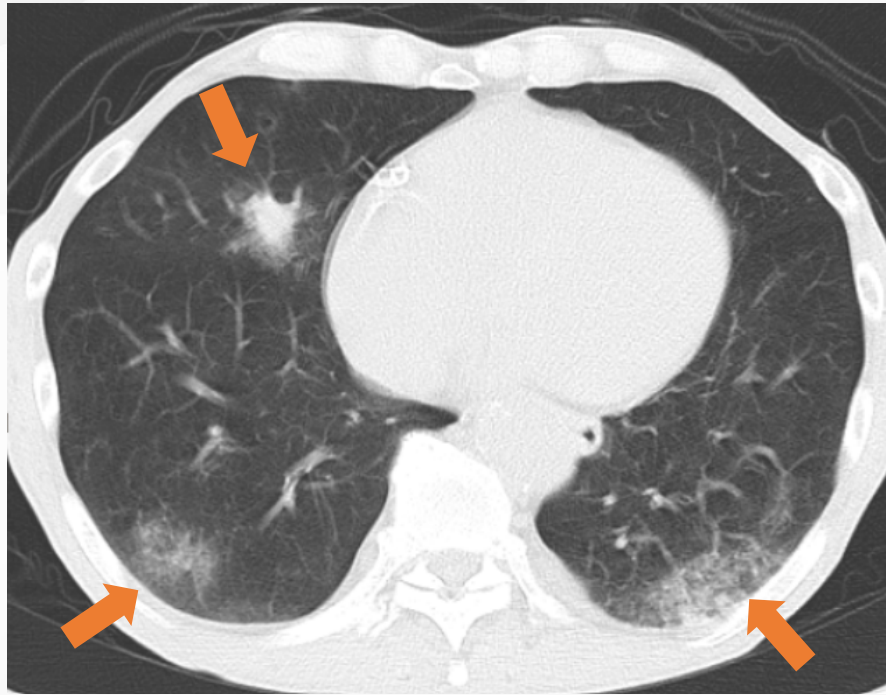


治療内容

WT1樹状細胞ワクチン療法、高活性化NK細胞療法

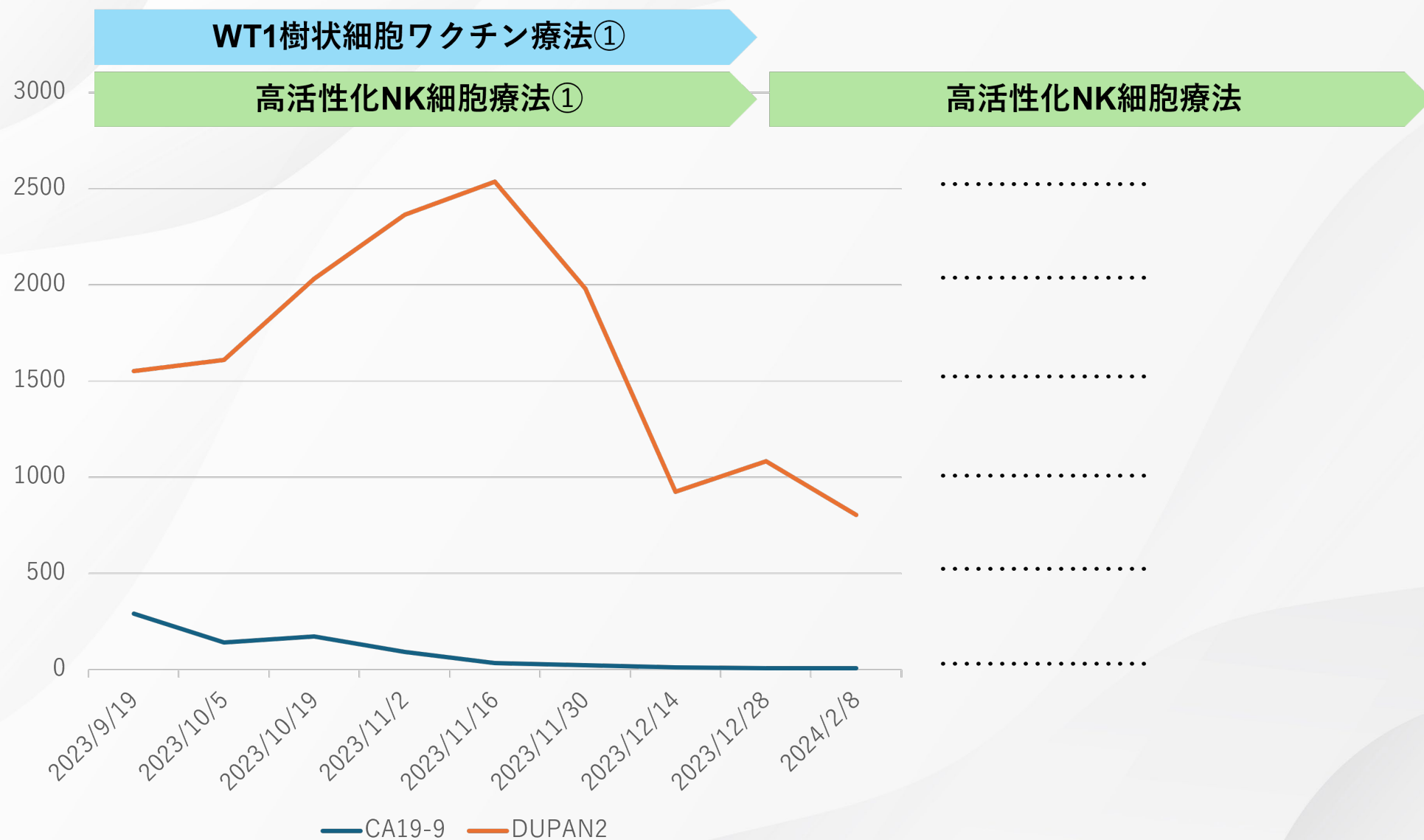
- 強い副作用のため抗がん剤治療の継続ができなかった。
- 当院でWT1樹状細胞ワクチンと高活性化NK細胞療法を開始したところ著明な腫瘍マーカーの減少を認めた。
- 1クール終了後も、2クール目を行い、腫瘍マーカーは現在も低値を維持できている。この間一切の抗がん剤を受けていない。

症例3 膵鉤部癌 肺転移、腹膜播種 (Stage IV)



治療内容 WT1樹状細胞ワクチン療法、高度活性化NK細胞療法

- 抗がん剤に加えWT1樹状細胞ワクチン療法と高度活性化NK細胞療法を開始した。
- 腫瘍マーカーの著明な低下を認め、多発肺転移も消退した。
- 1クール後に高活性化NK細胞療法を継続し現在も自立した生活を送っている。



Esophageal cancer cases

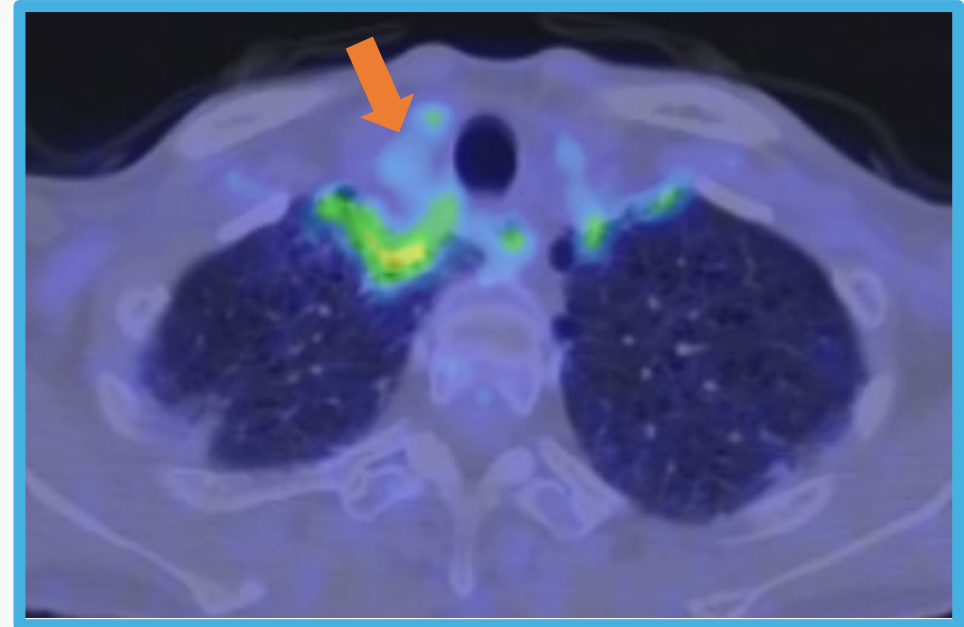
食道がん症例

- 食道神経内分泌細胞癌 多発リンパ節転移（Stage IV） — P10

症例4 食道神経内分泌細胞癌 多発リンパ節転移 (Stage IV)



免疫治療前

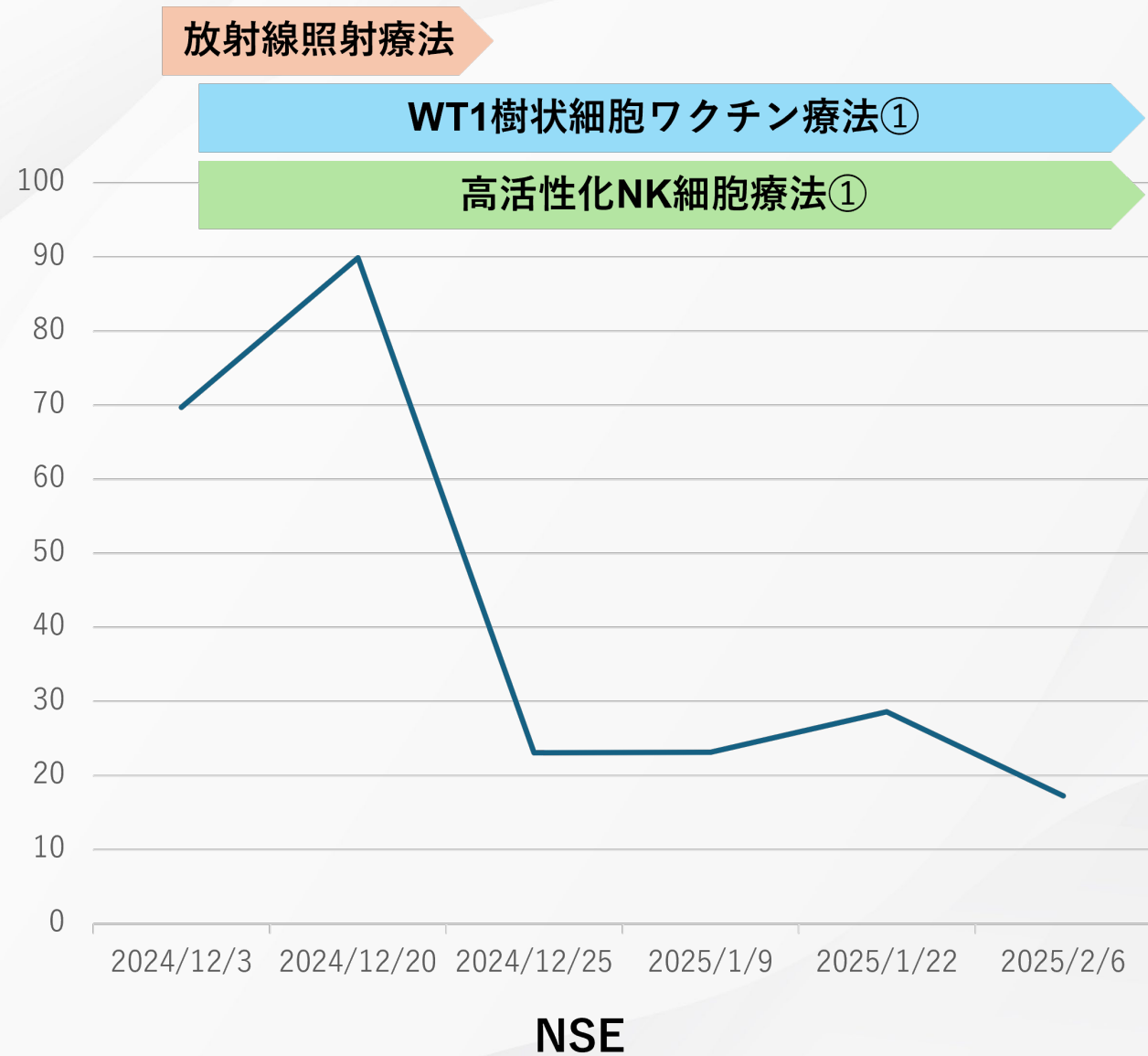


免疫治療後

治療内容 WT1樹状細胞ワクチン療法、高活性化NK細胞療法

- 原発巣に対する放射線治療に加えWT1樹状細胞ワクチン療法と高活性化NK細胞療法を開始した。
- 腫瘍マーカー減少、原発巣の著明な縮小を認めた。

症例4 食道神経内分泌細胞癌 多発リンパ節転移（Stage IV）腫瘍マーカー

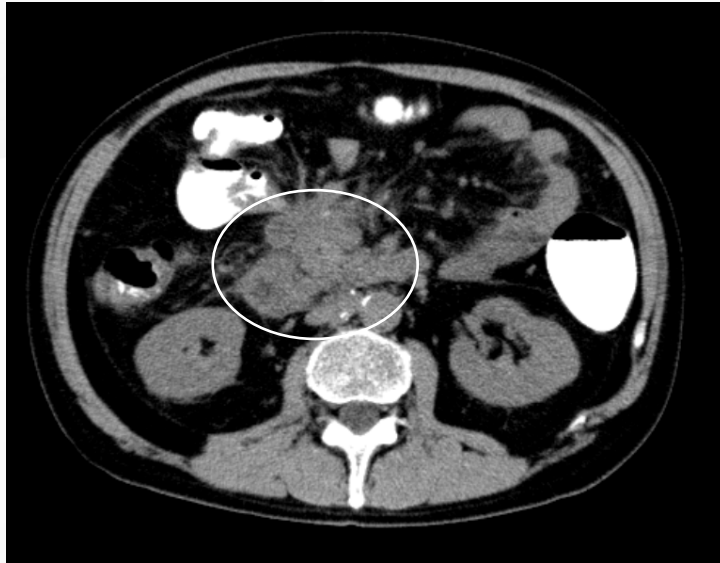


Duodenal cancer cases

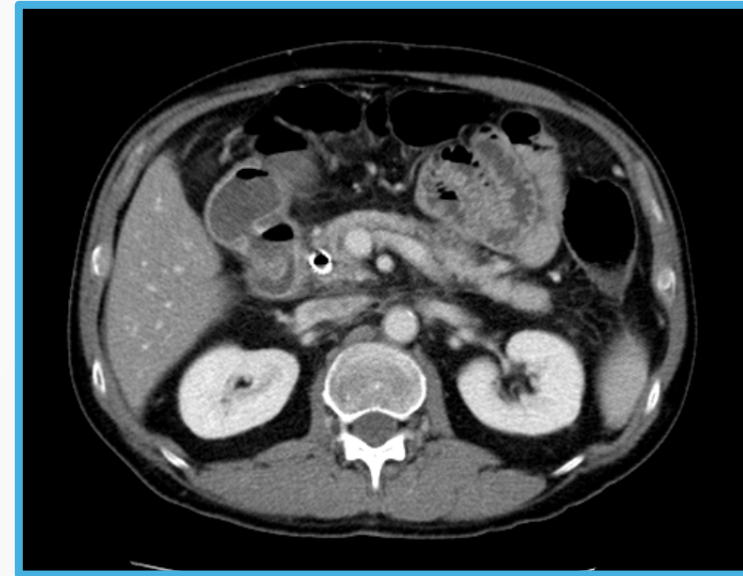
十二指腸がん症例

- 十二指腸癌、腹膜播種（ステージⅣ） — P13

症例5 十二指腸癌、腹膜播種（ステージⅣ）



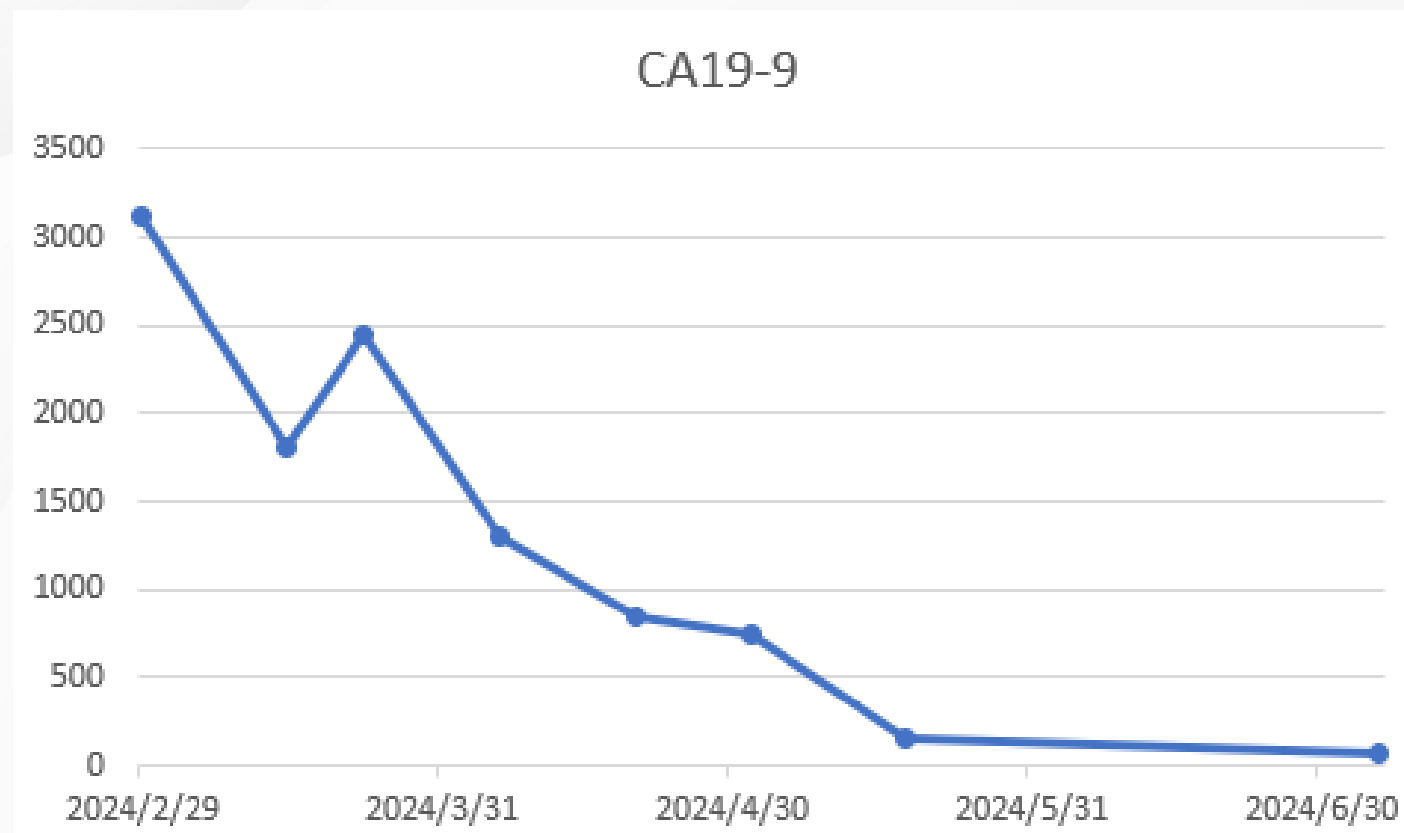
免疫治療前



免疫治療後

治療内容 WT1樹状細胞ワクチン療法、 α Galcer樹状細胞ワクチン療法、高活性化NK細胞療法、少量オブジーボ療法

- 化学療法が無効となり緩和ケアを推奨された。
- WT1樹状細胞ワクチン療法、 α Galcer樹状細胞ワクチン療法、NK細胞療法、少量オブジーボ療法にて腫瘍は[完全に消失した](#)。
- 治療開始時は腸管狭窄、激しい腹痛、嘔吐など消化器症状が極めて強く車いすであったが、治療後は経皮胆道ドレナージも抜去でき普通の生活を送れるまでに改善した。

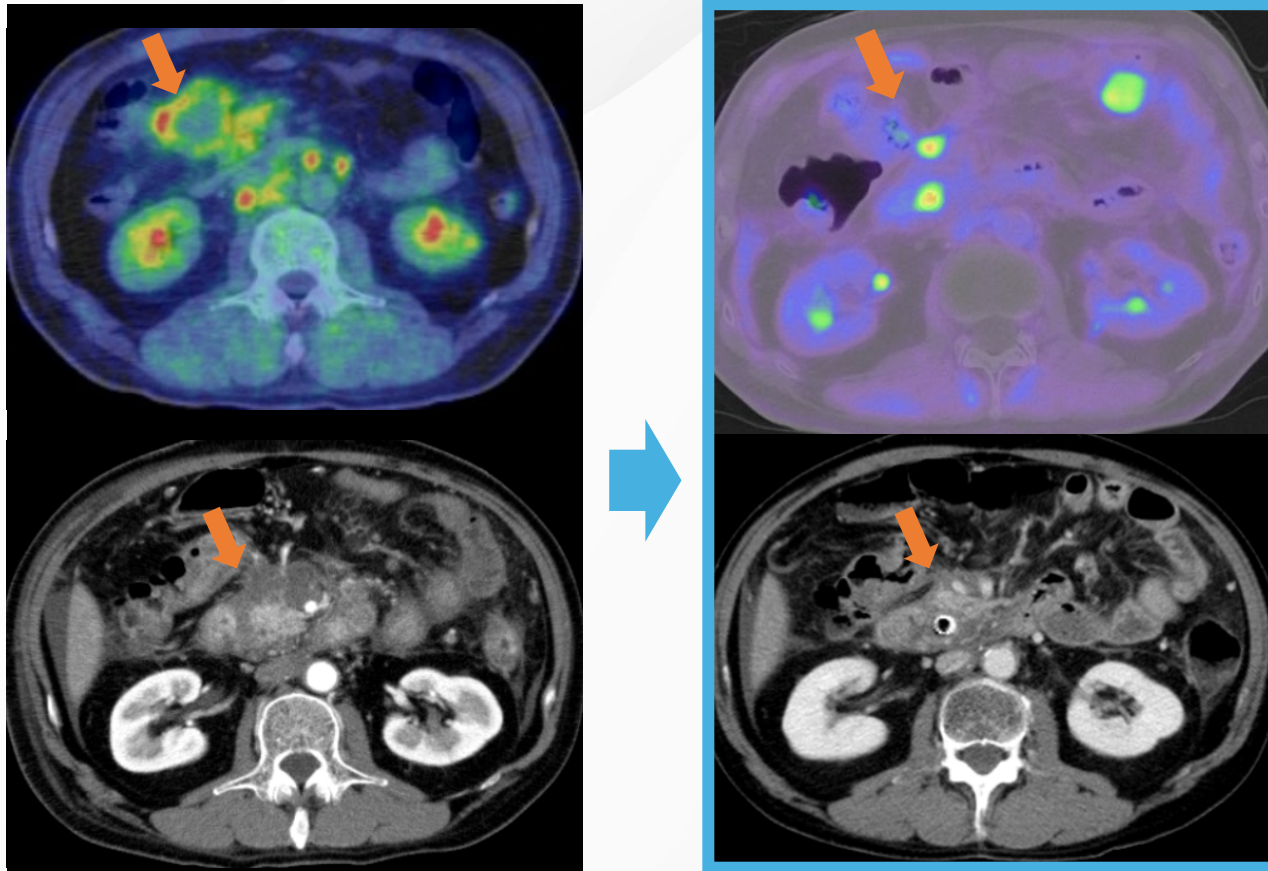


Bowel cancer cases

小腸がん症例

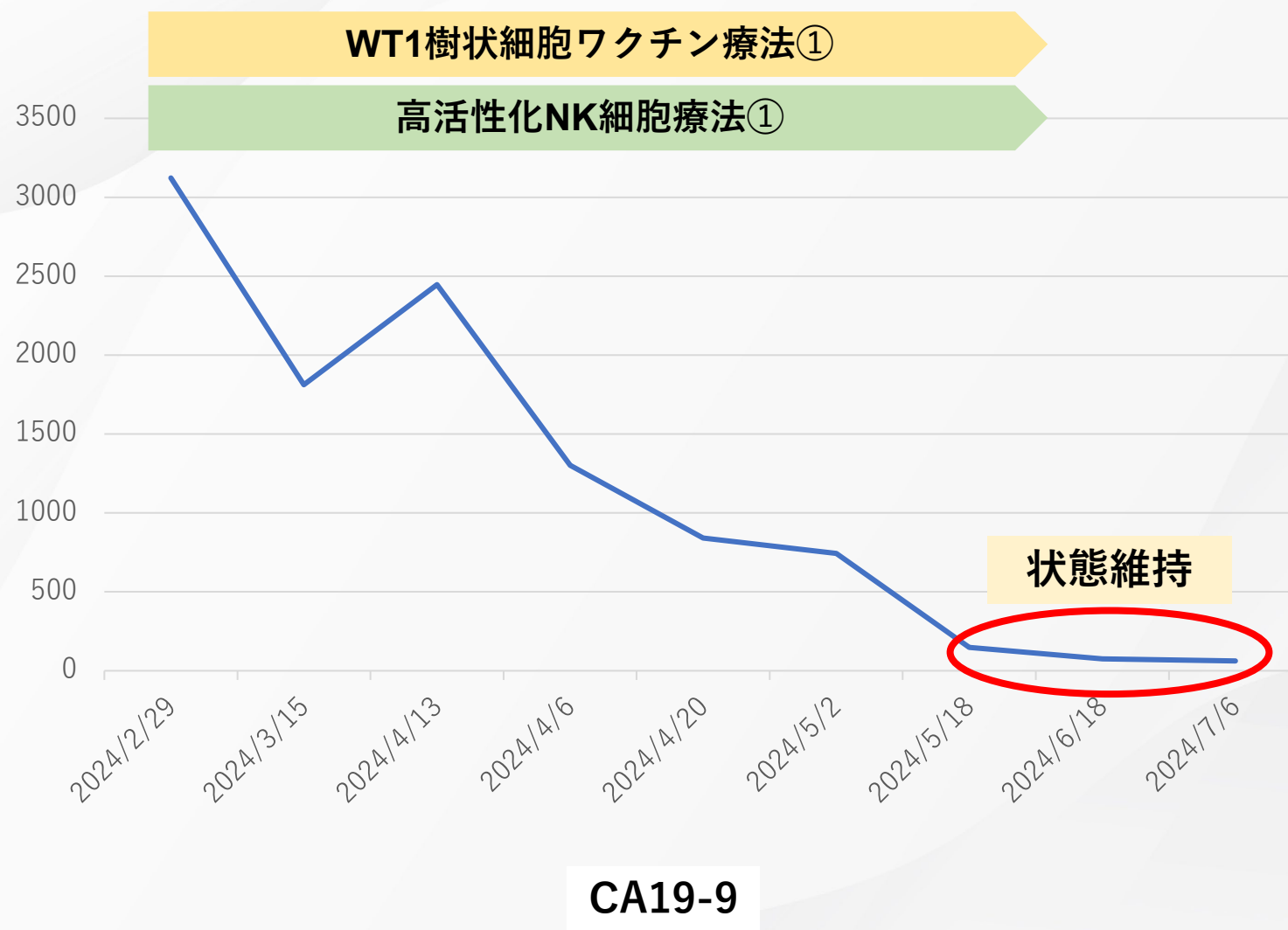
- 小腸癌 腹膜播種・閉塞性黄疸 (Stage IV) — P16

症例6 小腸癌 腹膜播種・閉塞性黄疸 (Stage IV) + 皮膚筋炎 (プレドニン5mg/日)



- 全身状態から標準治療継続困難と判断された。TPN（中心静脈栄養）点滴で栄養を受け経口摂取困難な状態であった。また、癌性疼痛コントロールにも難渋していた。
- WT1樹状細胞ワクチン療法と高活性化NK細胞療法を開始したところ、著明な腫瘍マーカーの減少と、CT画像上原発巣の縮小を認めた。
- 疼痛のコントロールも良好となり、経口摂取も可能となった。

治療内容 WT1樹状細胞ワクチン療法、高活性化NK細胞療法

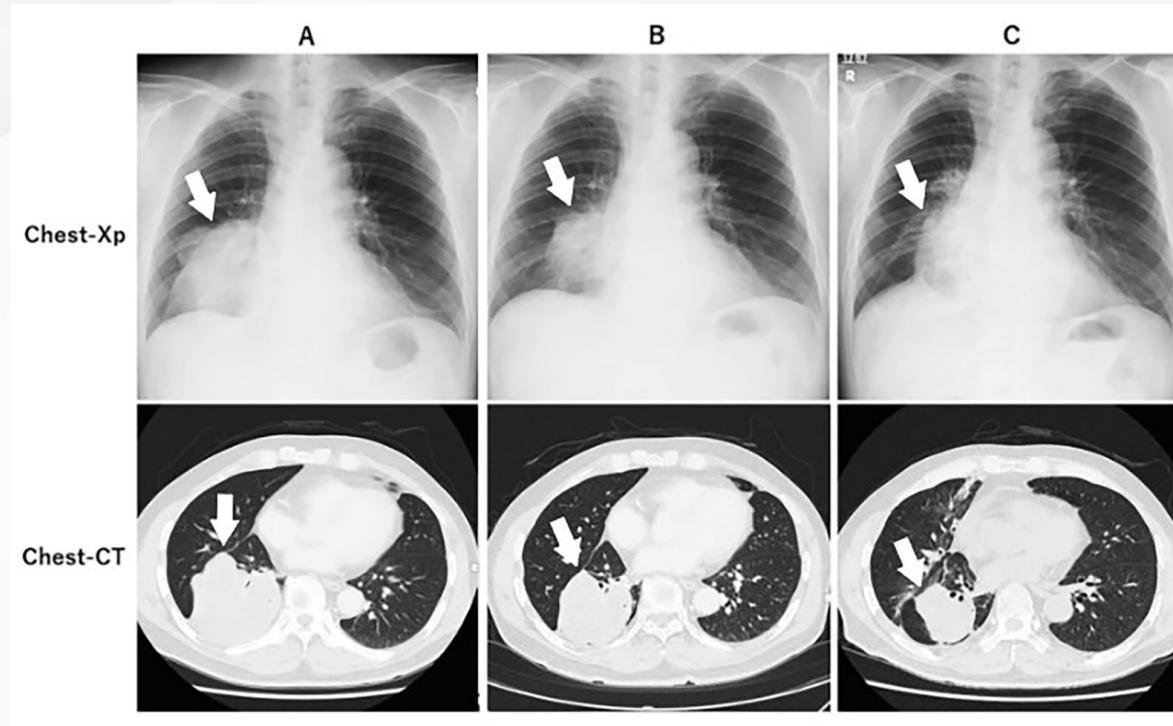


Lung cancer cases

肺がん症例

- 肺扁平上皮がん（ステージⅣ） — P19
- 肺扁平上皮癌、多発肝転移、両側副腎転移、骨転移（ステージⅣ） — P22

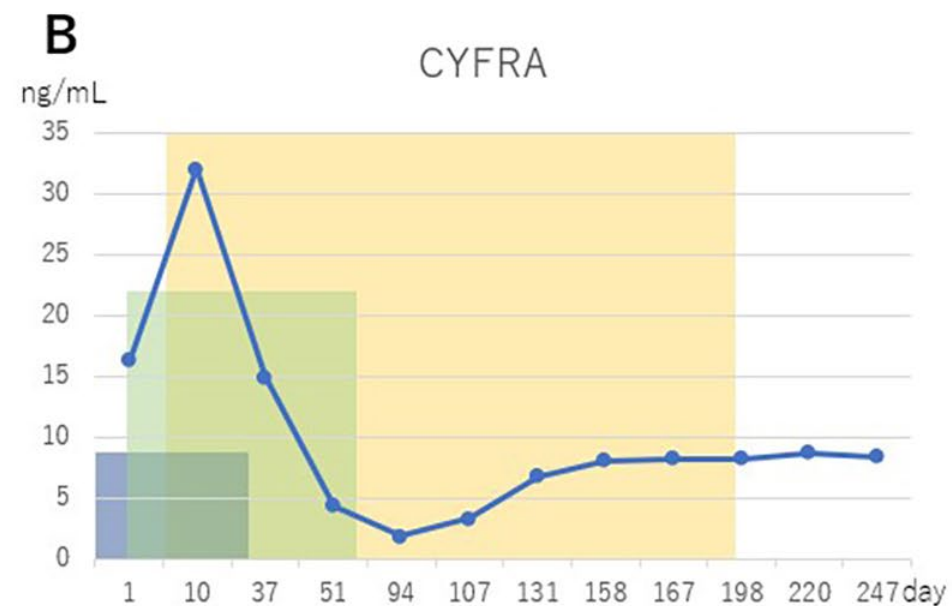
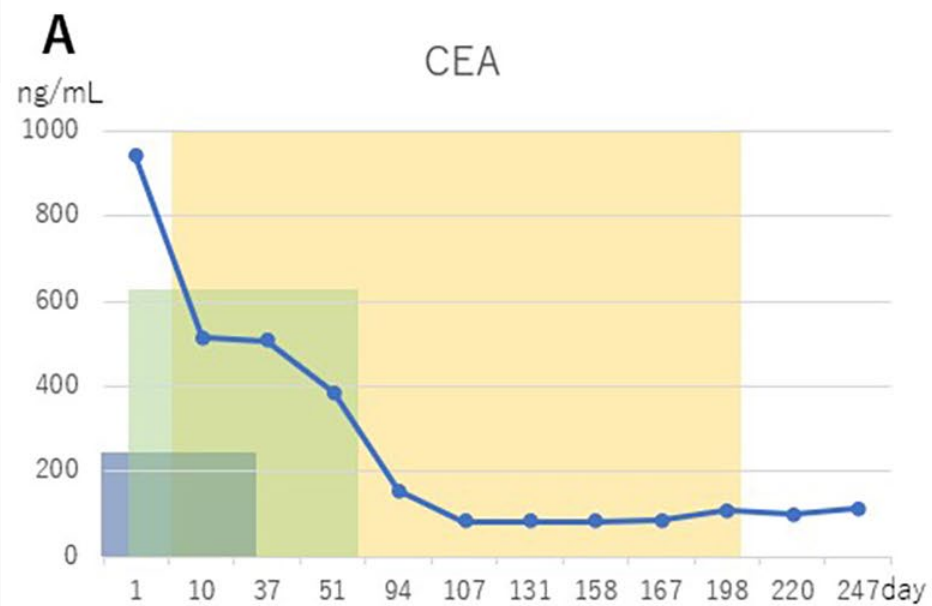
症例7 肺扁平上皮がん（ステージⅣ）



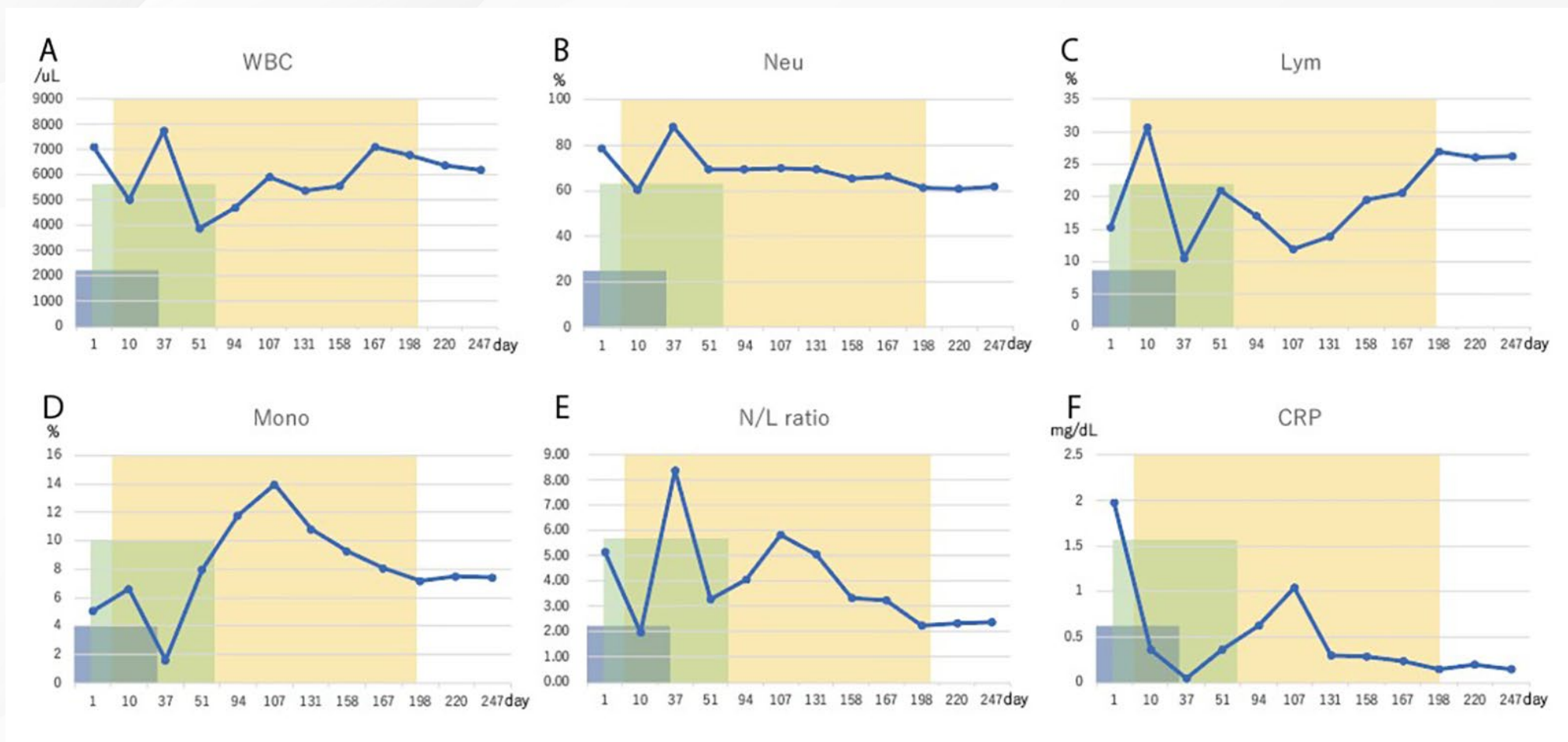
治療内容

- 化学療法（カルボプラチン、ペメトレキセド、キイトルーダ）＋放射線治療
- WT1樹状細胞ワクチン療法＋スーパー高活性化NK細胞療法＋免疫チェックポイント阻害剤

発見時にすでに腫瘍が大きく手術は不可と言われた。治療半年で腫瘍は[著名に縮小](#)しているが、化学療法の副作用が出現し、患者本人は化学療法を中止したいと考えている。

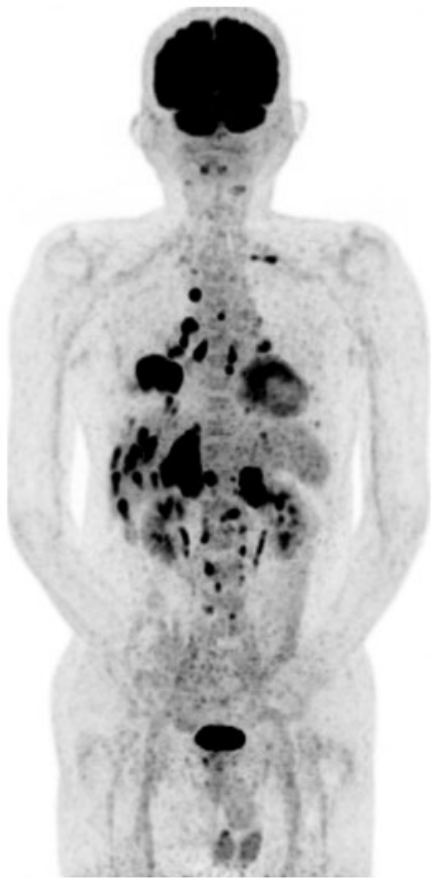


Cureus 2023



Cureus2023

症例8 肺扁平上皮癌、多発肝転移、両側副腎転移、骨転移（ステージⅣ）



A

免疫治療前



B

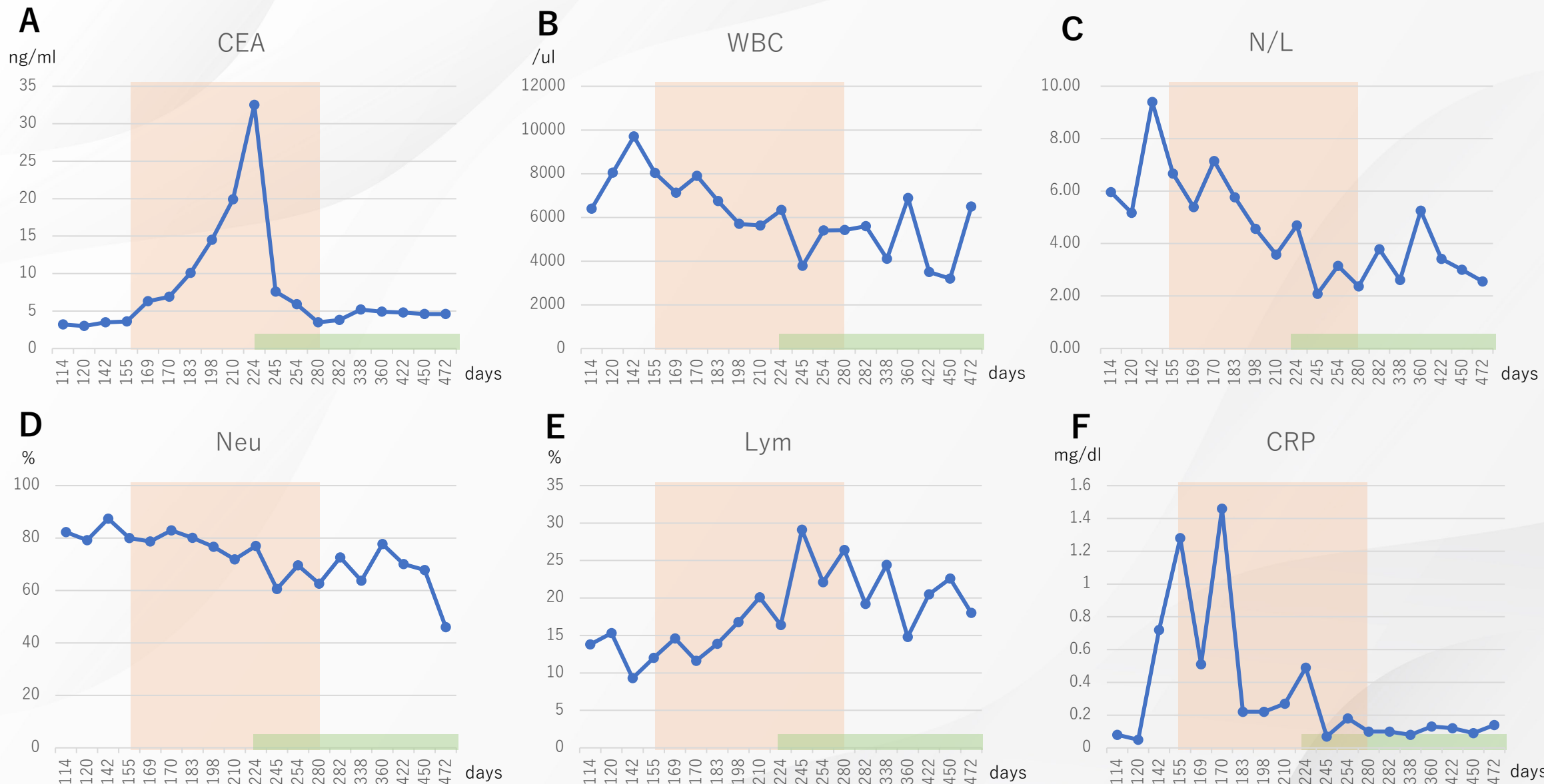
17か月後

治療内容

- 化学療法（カルボプラチン、パクリタキセル、ペムブロリズマブ）
- GPC総合免疫細胞治療（WT1樹状細胞ワクチン療法＋スーパー高活性化NK細胞療法＋免疫チェックポイント阻害剤）

化学療法を実施も肝転移巣が出現した。GPC総合免疫細胞治療に加えイピリムマブ点滴を実施したところ治療4か月で肝転移巣はほぼ消失。肺原発巣も縮小した。17カ月後でも維持。

症例8 肺扁平上皮癌、多発肝転移、両側副腎転移、骨転移（ステージⅣ） 腫瘍マーカー

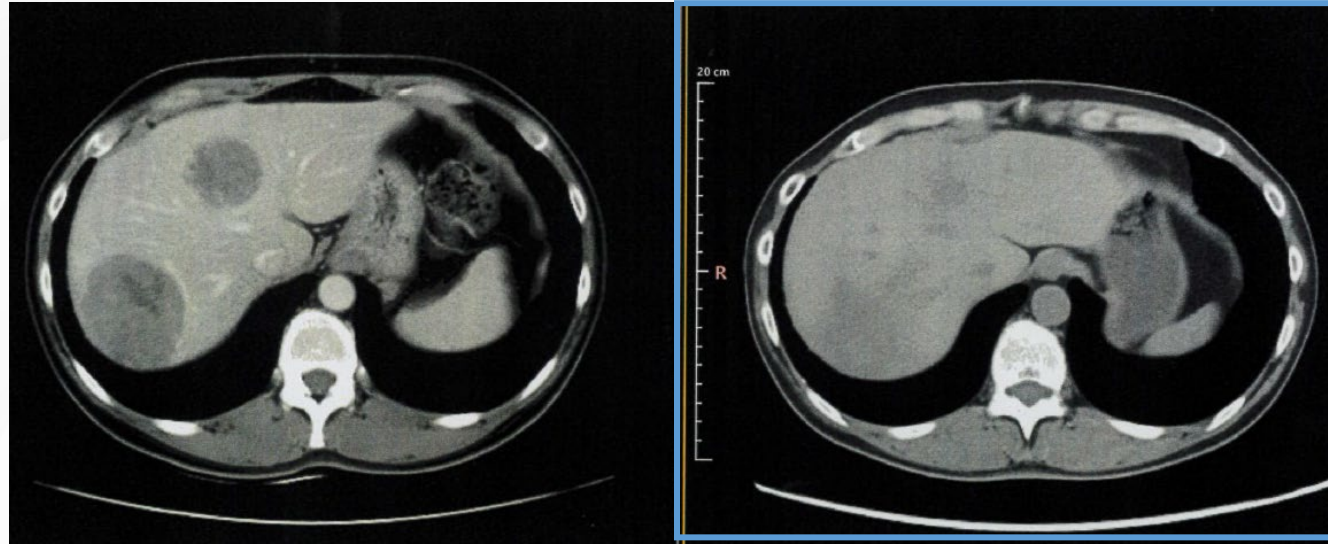


Cervical cancer cases

子宮頸がん症例

- 子宮頸がん、肺・肝多発転移（ステージⅣ） — P25

症例9 子宮頸がん、肺・肝多発転移（ステージIV）

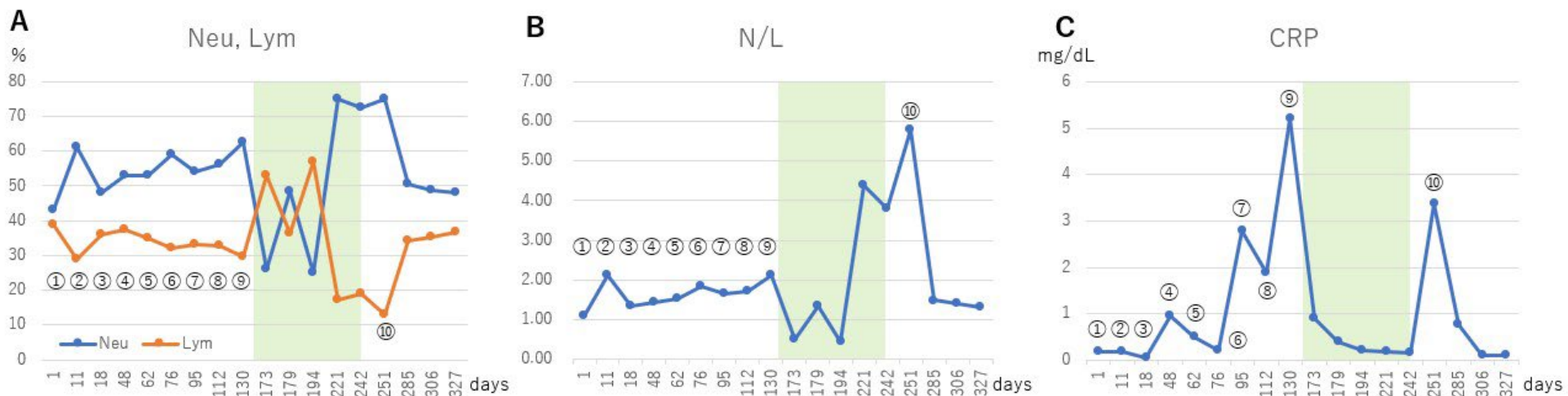


免疫治療前

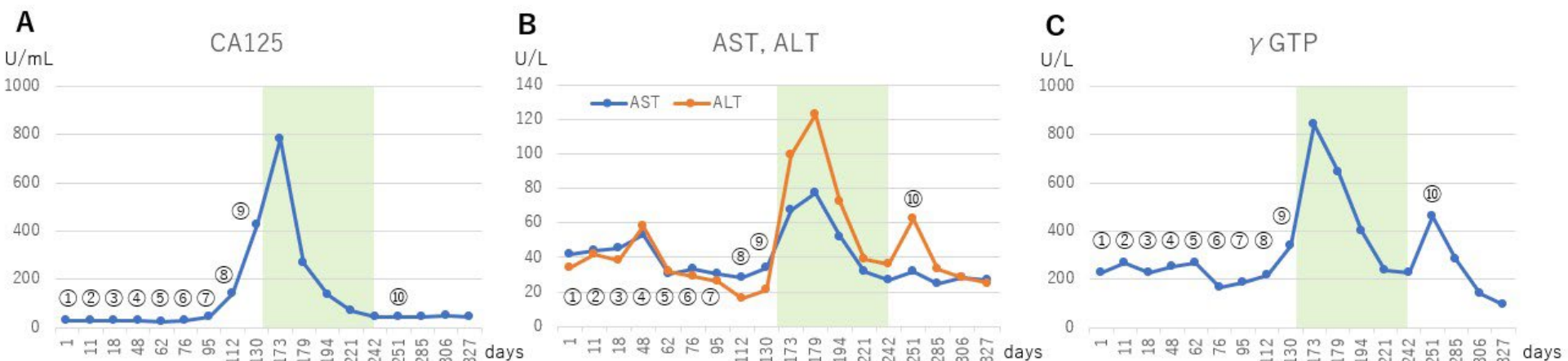
10か月後

治療内容 放射線治療（肝転移巣に対して）＋ WT1樹状細胞ワクチン療法＋スーパー高活性化NK細胞療法＋免疫チェックポイント阻害剤

- 子宮頸癌未分化癌（広汎子宮全的術後）、肺・肝多発転移、Stage IV
- 化学療法（パクリタキセル、シスプラチン）を実施するも増悪したため中止となった。
- 免疫治療前の状態で余命3か月と宣告されたが、治療開始後に肝臓転移巣が著明に縮小し、ほとんど消失した。



①-⑩は樹状細胞ワクチン、緑は化学療法の期間。GPC総合免疫治療によって免疫状態が正常化し、抗腫瘍免疫が活性化されることで、他の治療法の感受性が改善する。



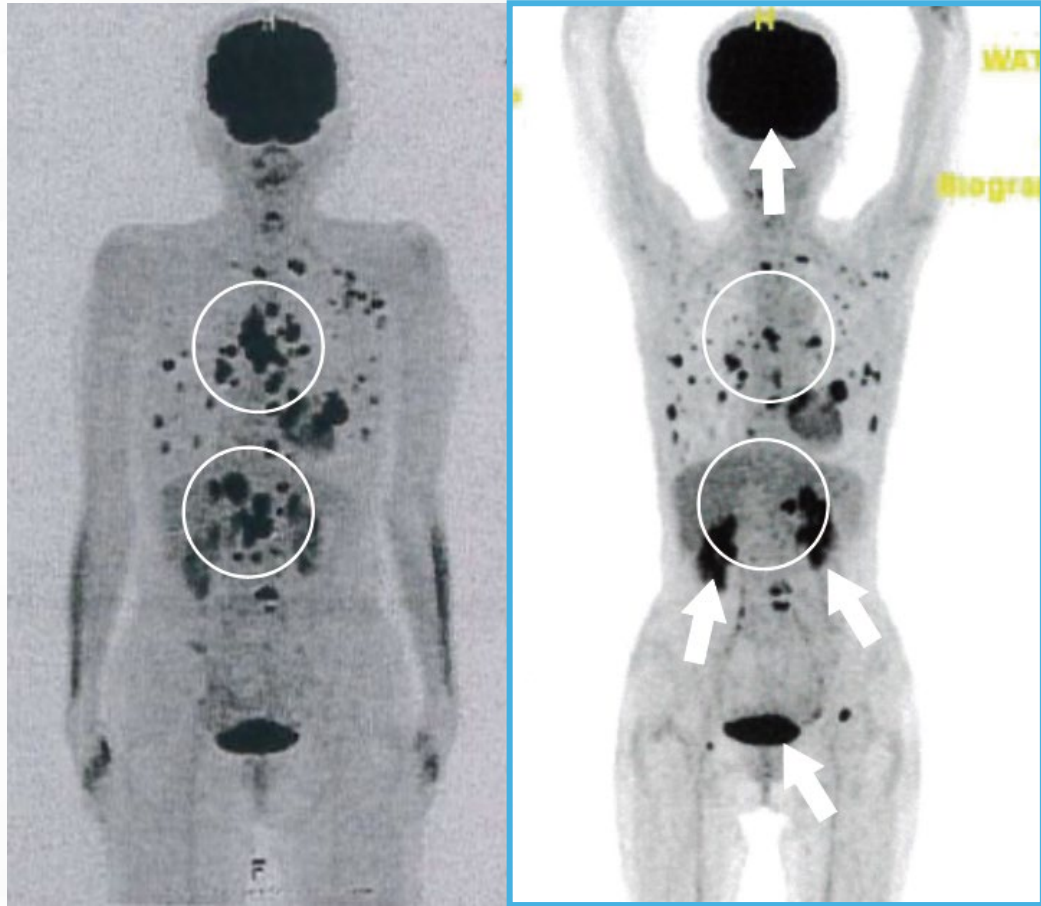
腫瘍マーカーCA125の顕著な低下と⑩のワクチン接種後の肝機能の正常化を示す。

Breast cancer cases

乳がん症例

- 乳癌、肺・骨多発転移（ステージⅣ） — P28
- 乳癌 多発肝・骨転移（StageⅣ） — P29

症例10 乳癌、肺・骨多発転移（ステージⅣ）



免疫治療前

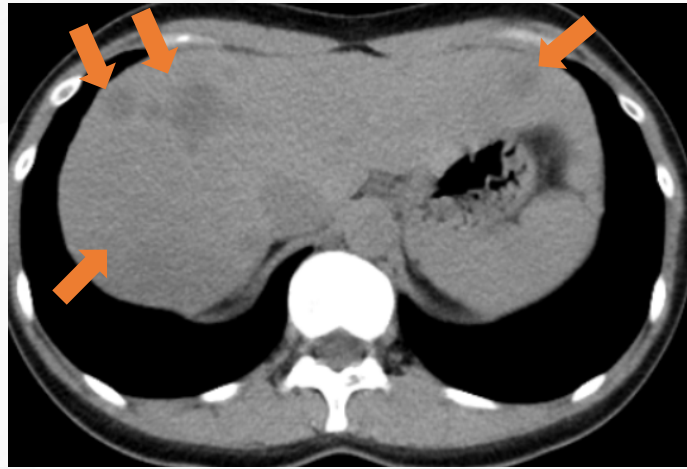
3か月後

治療内容

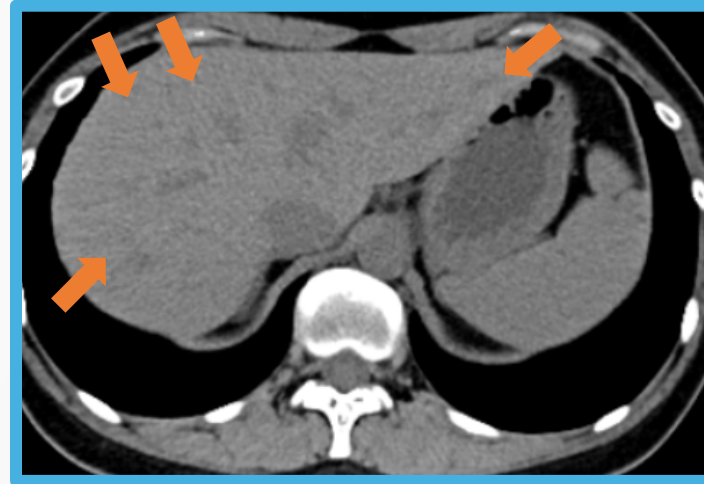
- 分子標的薬（ペルツズマブ、トラスツズマブ）
- WT1樹状細胞ワクチン療法 + スーパー高活性化NK細胞療法 + 免疫チェックポイント阻害剤

診断時で既に治療開始前の状態。殺細胞剤の使用に関しては患者本人が副作用を懸念し拒否。3か月の治療で多発縦郭リンパ節と多発腰椎転移が著明に縮小し、腰痛も消失した（○の部分）。

症例11 乳癌 多発肝・骨転移 (StageⅣ)



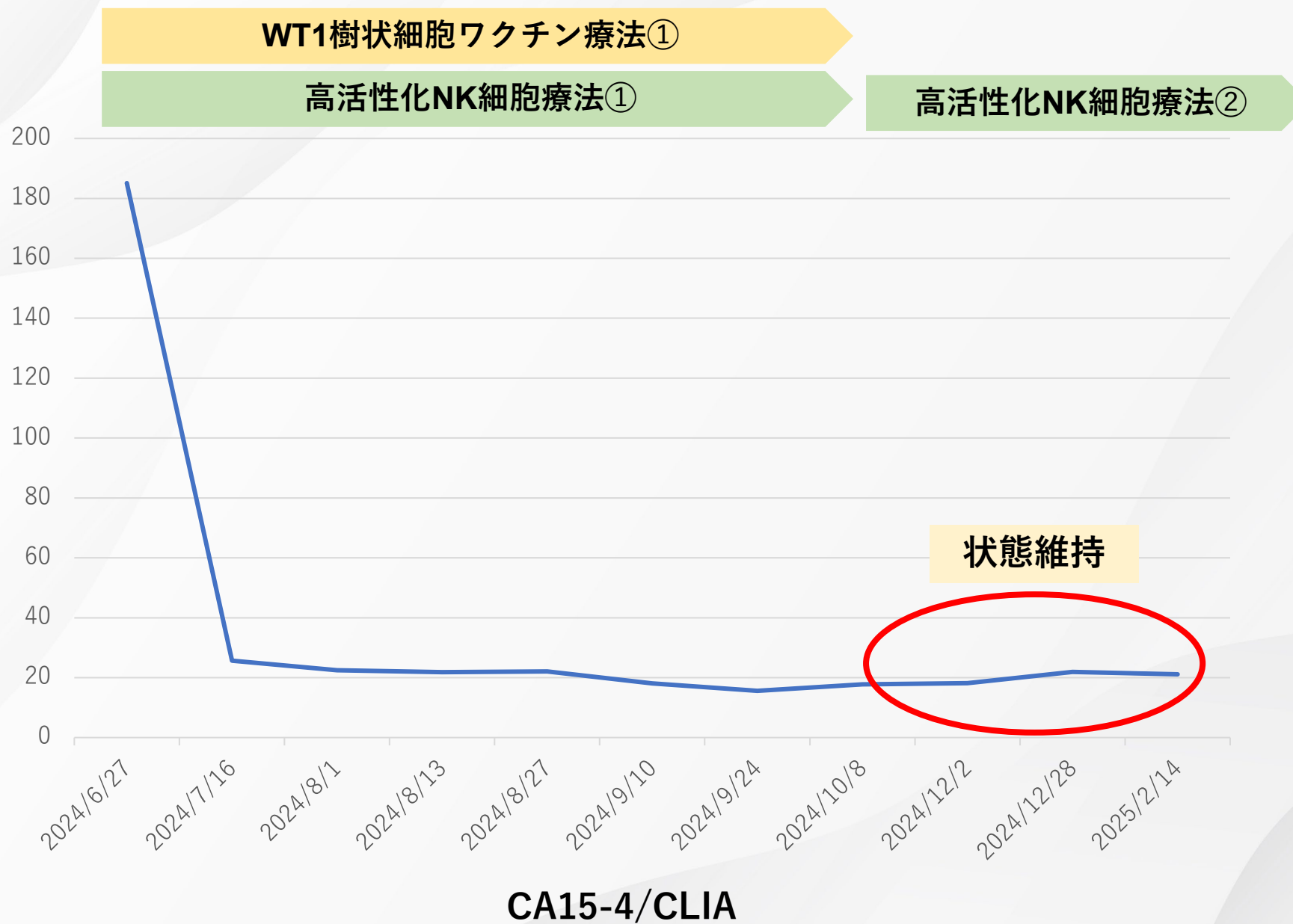
免疫治療前



免疫治療後

治療内容 WT1樹状細胞ワクチン療法 + 高活性化NK細胞療法

- 化学療法に加えて、WT1樹状細胞ワクチン療法と高活性化NK細胞療法を開始した。
- 腫瘍マーカーの著明な低下を認め、多発肝転移巣の縮小消退を認めた。

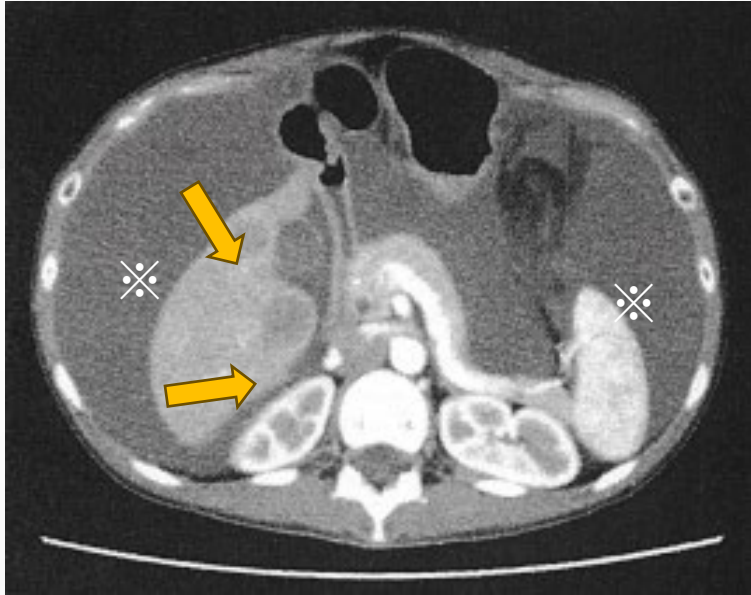


Ovarian tumor cases

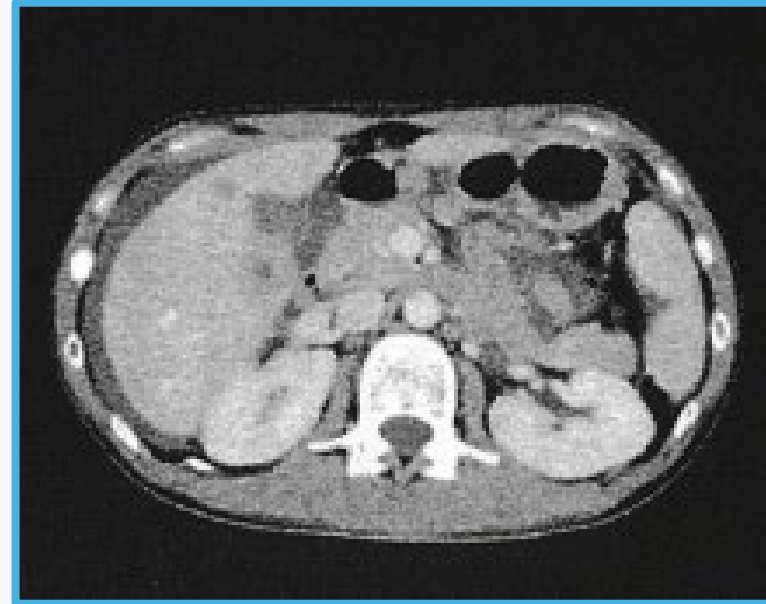
卵巣がん症例

- 卵巣癌・子宮体癌、多発肝転移、腹膜播種、肺転移StageⅣ— P32

症例12 卵巣癌・子宮体癌、多発肝転移、腹膜播種、肺転移StageⅣ



免疫治療前

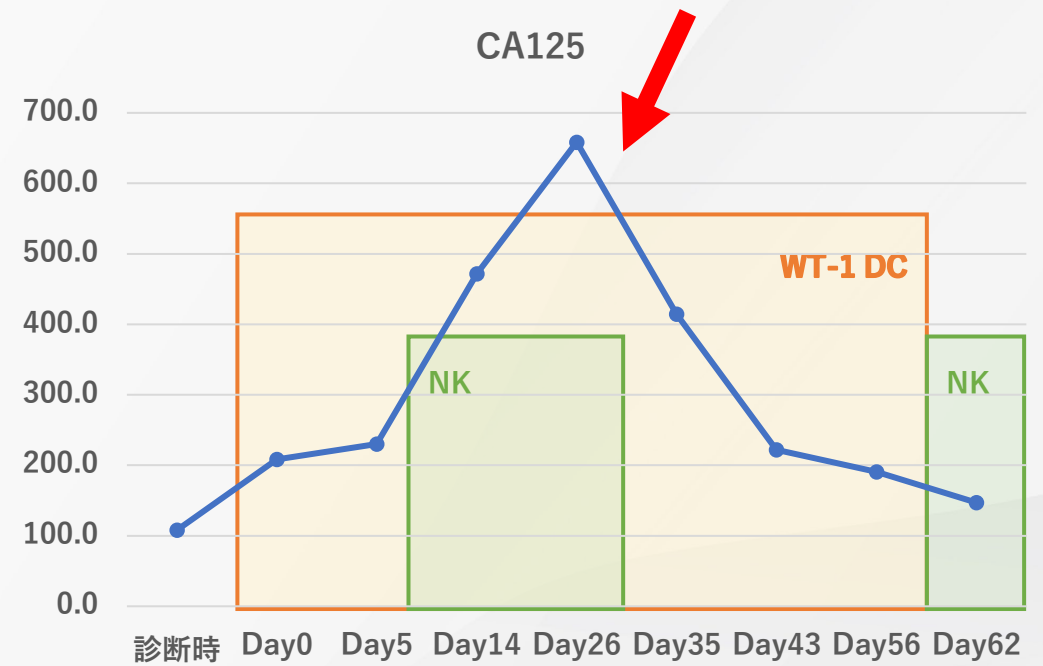
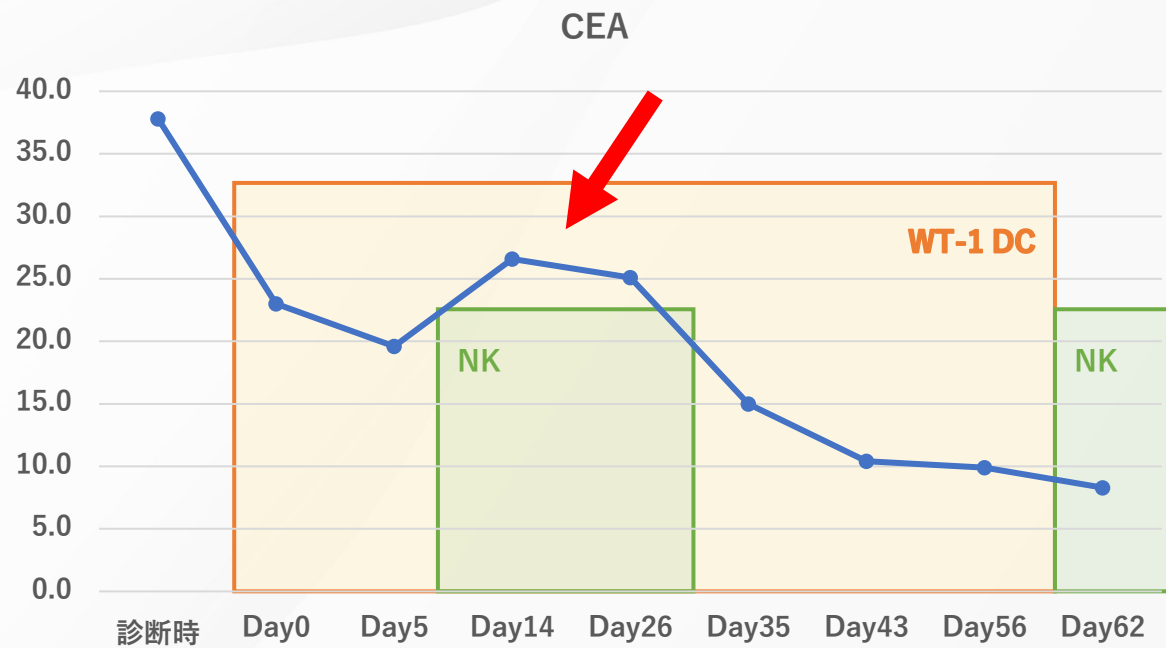


治療後

治療内容 WT-1樹状細胞ワクチン療法・NK細胞療法・Nivolumab

- ・ 大量腹水の減少（※）・肝転移の縮小（黄色矢印）
- ・ 癌性腹膜炎・腹膜播種・肝転移は[NK療法併用後](#)に著明な改善

《治療》 WT-1樹状細胞ワクチン療法・NK細胞療法・Nivolumab



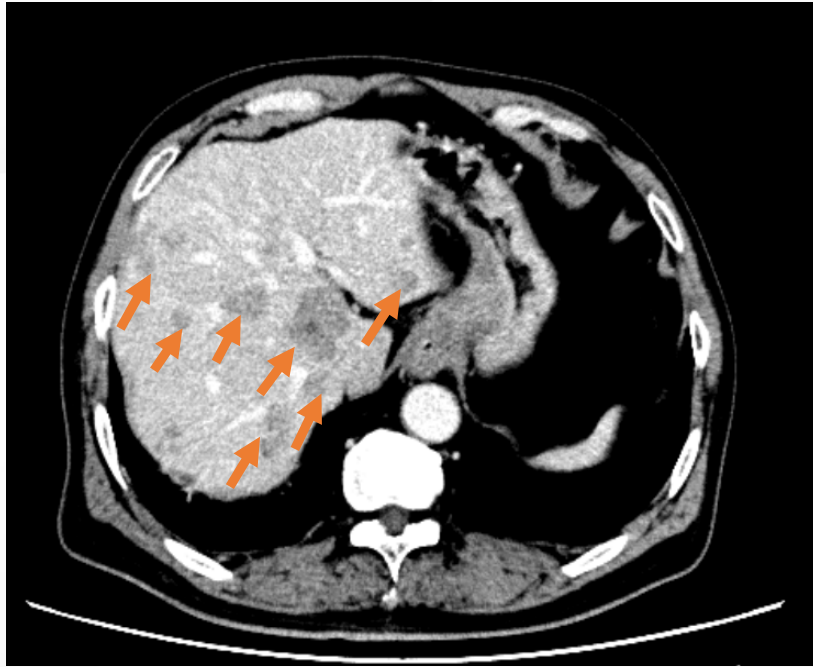
腫瘍マーカーもNK療法併用後に著明な改善

Gastric Cancer cases

胃がん症例

- 胃癌 多発肝転移 StageⅣ① — P35
- 胃癌 多発肝転移 StageⅣ② — P36
- 肝臓癌 多発肺・骨転移(Stage Ⅳ) + 肝硬変 — P37

症例13 胃癌 多発肝転移 StageⅣ①



診断時
多発肝転移 30か所以上

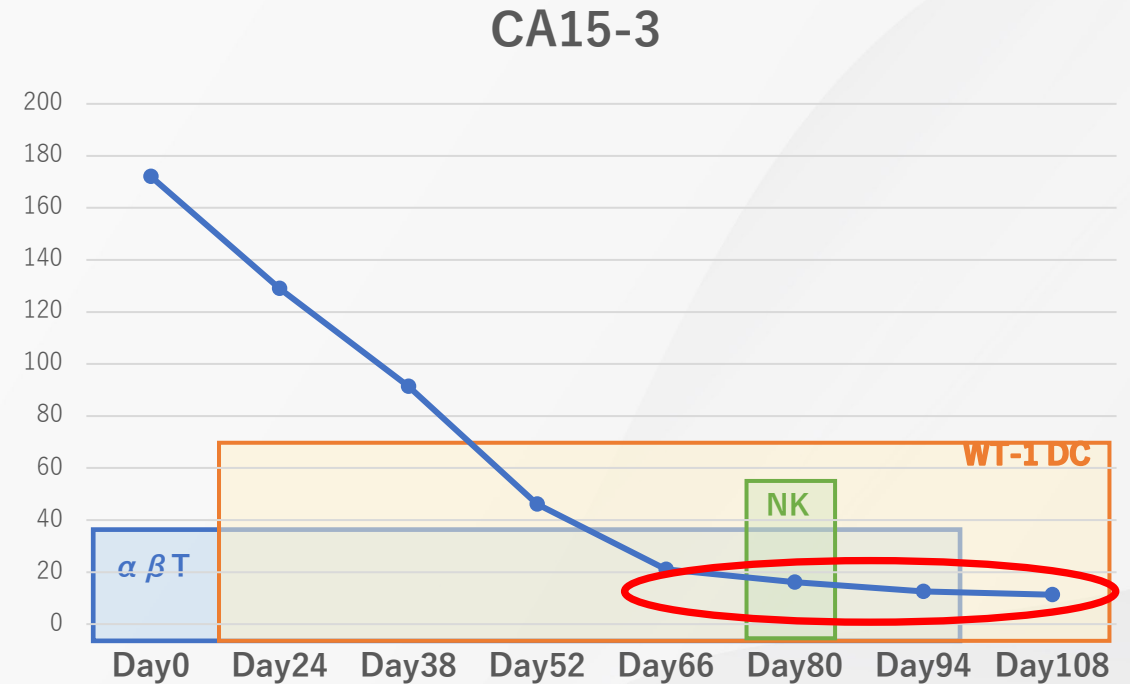
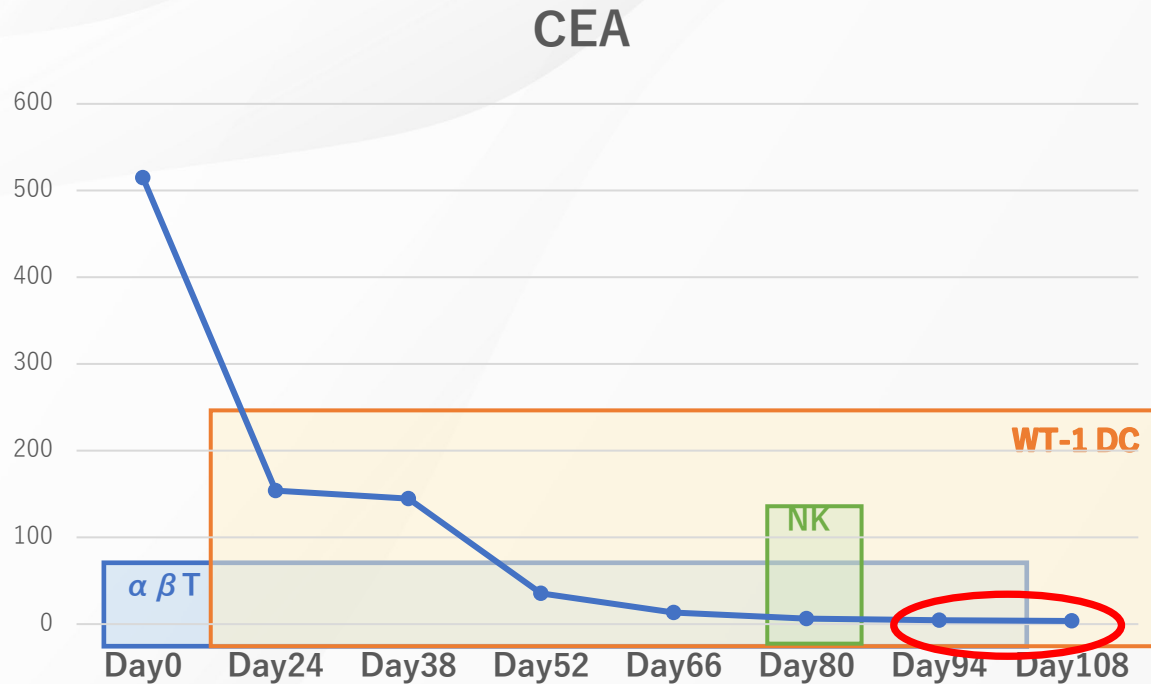


免疫細胞療法 1クール後
ほぼ全ての転移巣が消失
最大径だった転移巣も縮小

治療内容

WT-1樹状細胞ワクチン療法・ $\alpha\beta$ T細胞療法・NK細胞療法

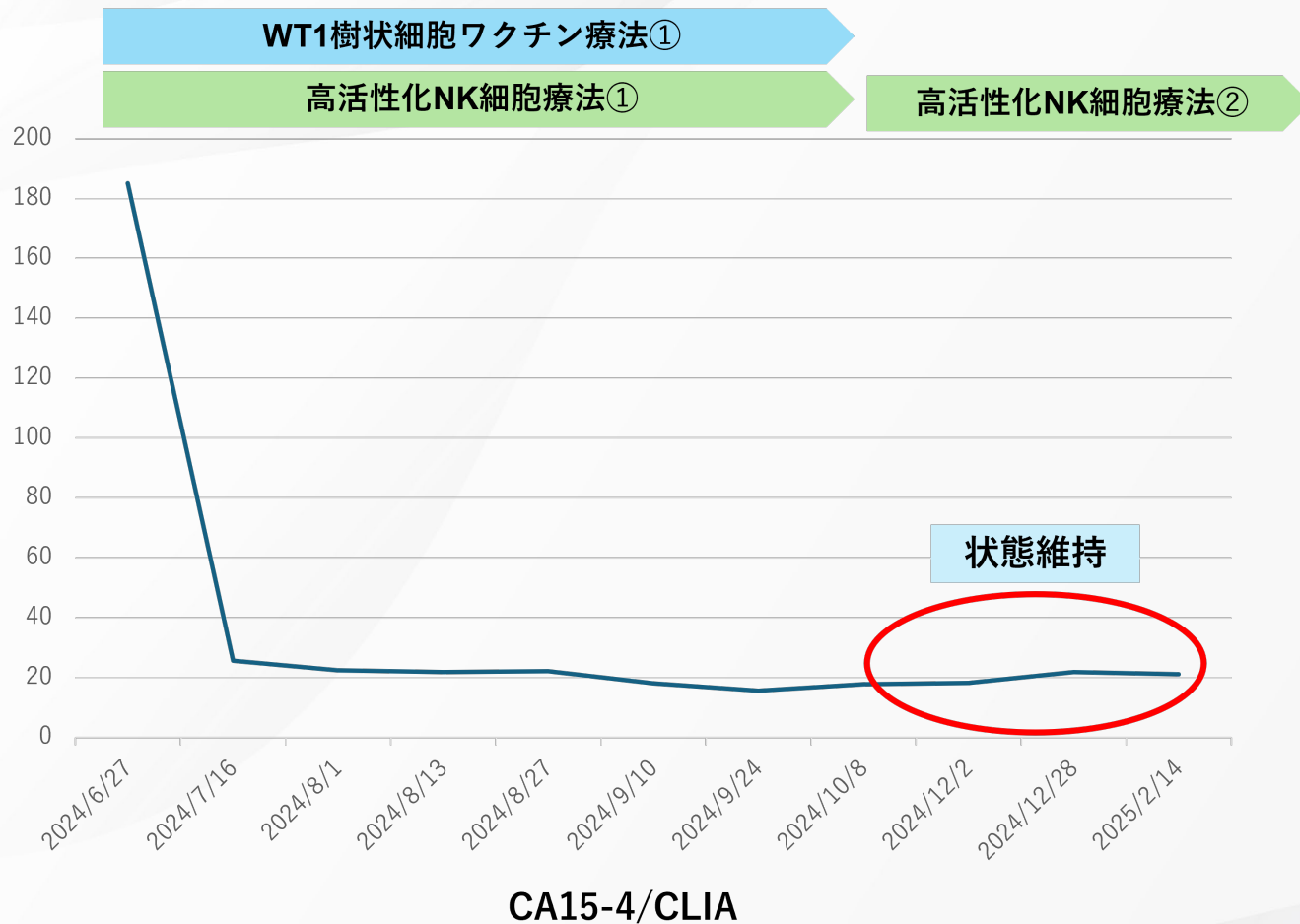
症例14 胃癌 多発肝転移 StageⅣ②



治療内容 WT-1樹状細胞ワクチン療法・αβT細胞療法・NK細胞療法

- ・WT-1樹状細胞ワクチン + αβT細胞療法が著効した症例
- ・腫瘍マーカーが陰性化

症例15 胃癌術後 大腸転移・腹膜播種(Stage IV)



治療内容 WT1樹状細胞ワクチン療法、高活性化NK細胞療法

強い副作用のため抗がん剤継続が困難であった。そこで、WT1樹状細胞ワクチン療法と高活性化NK細胞療法を開始したところ腫瘍マーカーの減少を認めた。

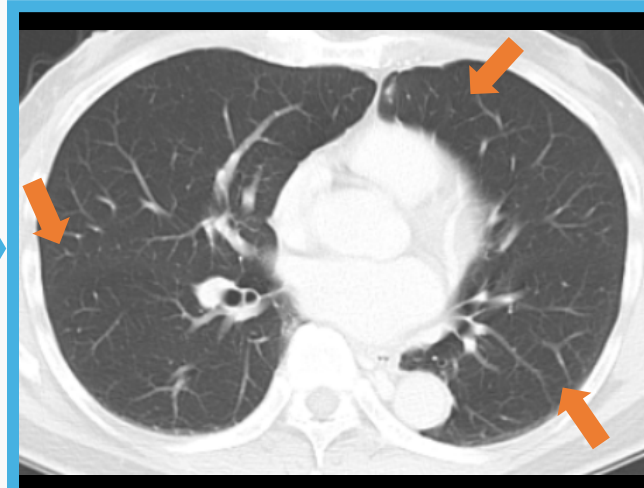
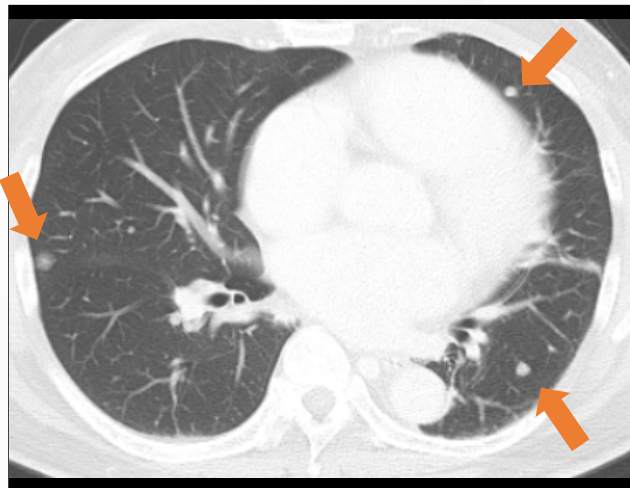
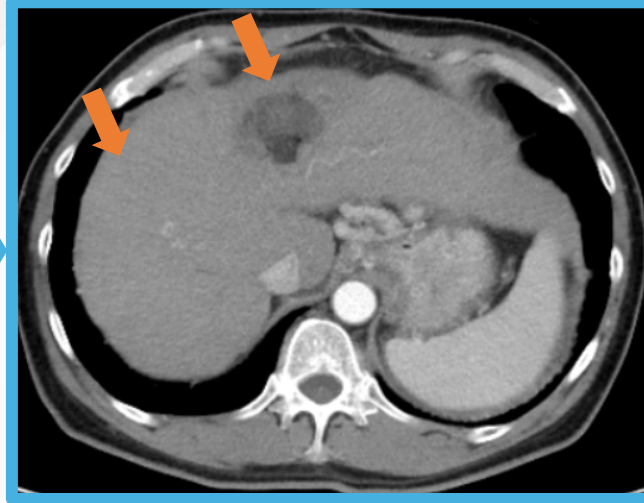
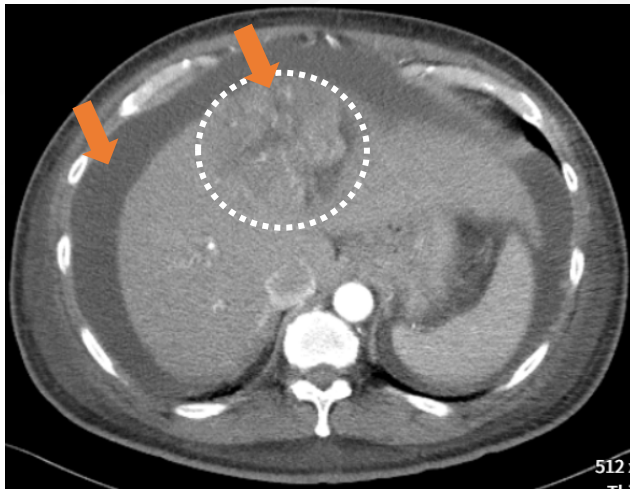
1クール後も高活性化NK細胞療法を継続しており、腫瘍マーカーは低値を維持している。

Liver cancer cases

肝臓がん症例

- 肝臓癌 多発肺・骨転移(Stage IV) + 肝硬変 — P39

症例16 肝臓癌 多発肺・骨転移(Stage IV) + 肝硬変



治療内容 WT1樹状細胞ワクチン療法、高活性化NK細胞療法

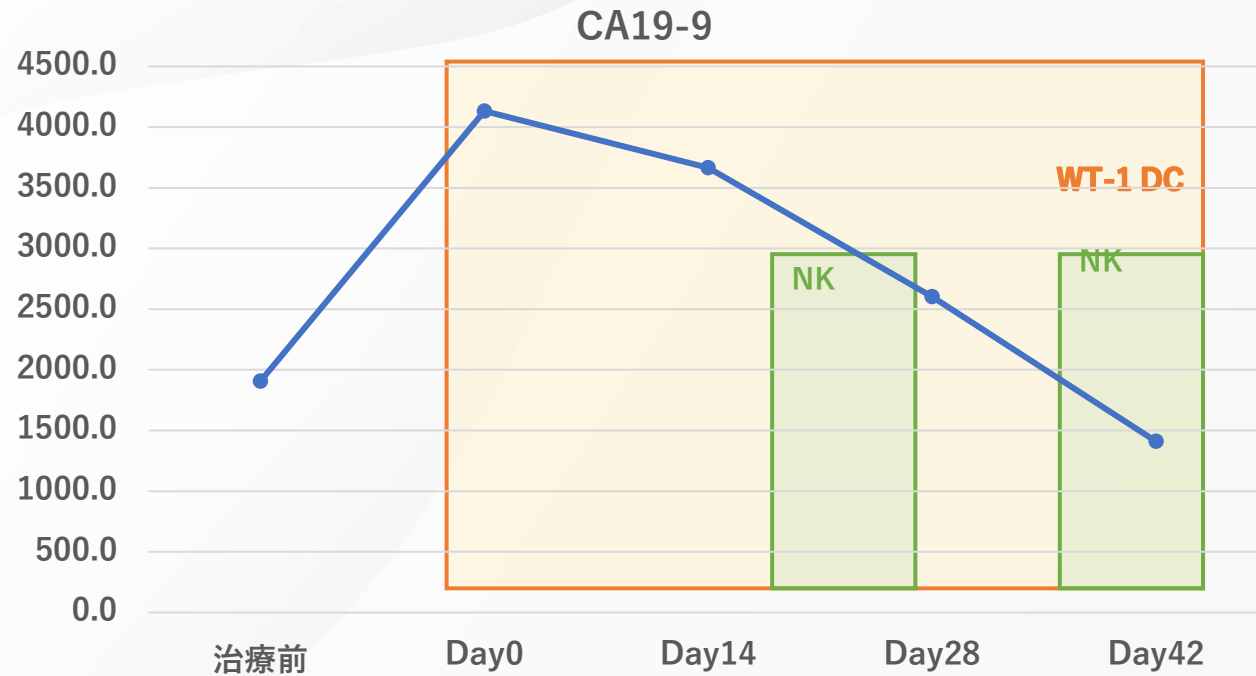
- 全身衰弱のため化学療法など標準治療継続が困難であった。
- WT1樹状細胞ワクチン療法と高活性化NK細胞療法を開始したところ腫瘍マーカーの著明な減少を認めた。
- 原発巣縮小と、多発肺転移消退が確認できた。
- 現在、2クール目の高活性化NK細胞療法を継続し、全身状態と肝機能改善に伴い化学療法併用も可能となった。

Occult Primary cases

原発不明がん症例

- 原発不明癌 多発肺転移 StageIV — P41

症例17 原発不明癌 多発肺転移 StageIV



治療内容 WT-1樹状細胞ワクチン療法・NK細胞療法

- ・ 原発不明癌 多発肺転移で治療手段なし
- ・ 前医でオプジーボ単独投与されたが、副作用と腫瘍抑制の効果なかったため中止
- ・ 免疫細胞療法を導入後、腫瘍マーカーが著しく改善

Contact

お問い合わせ

ご不明な点がございましたら、
お気軽にお問い合わせください。

無料の医療相談をご利用いただけます。患者様一人ひとりの状況・症状に応じて、最適な治療をご提案いたします。※血液検査やCTなどの画像データをご準備ください。ご予約は、下記の電話番号またはお問い合わせフォームより承っております。



TEL : 03-6263-8163

受付 10:00～17:00（祝休み）

[お問い合わせフォーム](#)